

中国川下り交渉経過

1984年

- 4月 • 1987年実施計画として中国ヤルツェンボ河下りの趣意書が鹿内・坂本・岡内の3人より出される。国内において渉外活動を開始する。
- 12月31日 • 中国登山協会へ初めて、ヤルツェンボ河下りの許可を申請する。

1985年

- 1月中旬 • 登山協会より、ヤルツェンボ河はアメリカ隊が行うので許可出来ないが、ロンブク河を下らないかという返事を貰う。
- 2月中旬 • 登山協会へ、ロンブク河についての資料の提供を希望する。
- 7月中旬 • 登山協会より、ロンブク河は川下りには向いていないと思うので、長江の支流の岷江を下らないか、と言う返事を貰う。
- 7月31日 • 登山協会へ、岷江の偵察隊を9月・10月中に早急に出したい、と言う申請を出す。
- 9月11日 • 登山協会より、「現在、四川省が手続きを行っているので、偵察は暫く待つて欲しい」、と返事を貰う。
- 11月7日 • 登山協会へ、12月に交渉・偵察隊を出す、と言う計画書を送る。
- 12月24日 • 鹿内、坂本、岡内の3人が登山協会を訪問し中国国際体育旅游公司（以下、旅游公司与略記）を紹介される。2回にわたって会談する。四川省に連絡し金銭面等について分かり次第、日本の我々に連絡してくれる約束をとりつける。

1986年

- 1月 • 鹿内の卒業に伴い隊員を再編する。（坂本・岩根・大西・山下）
- 2月3日 • 約束の返事が来ないので、旅游公司へ偵察隊及び費用の件について催促の手紙をだす。
- 3月13日 • 再度、旅游公司に偵察隊の件について電話で問い合わせ。
「四川省による事前調査が、5月まで延びたのでそれまで待つてほしい。」との事。
- 4月初旬 • 旅游公司へ、四川省が行う事前調査に同行させて貰えるか、手紙で問い合わせるが返事は貰えず。
- 6月17日 • 旅游公司に「事前調査はどうなっているのか？ 我々は8月に岷江を下れるのか」について、電話で問い合わせる。
「四川省からまだ連絡がないので、調べてから返事を出す」との事。
- 6月28日 • 旅游公司より、四川省の方が未だ条件整わず、今夏の岷江下りは、延期して欲しいと返事を貰う。
- 7月 • 計画が延期になったことにより、坂本の参加が無理になり岩根も難しくなる。
これにより再度、隊の再編を考える事になる。
- 10月9日 • 旅游公司に、我々は1987年8月に本当に下れるのか、また、岷江以外に解放

されている河川はあるのか、について手紙をだす。

11月17日 ・岷江の許可がすぐにも出そうな返事と、解放されている4つの河川の紹介をうける。

11月21日 ・とにかく我々は岷江を下りたいが、もし1987年に実行出来ないようなら計画を変更するので先の4つの河川について、費用を知らせて欲しいと手紙をだす。

1987年

1月7日 ・「岷江下りを許可する。費用は1人当1,056,000円」との返事を貰う。

1月17日 ・もう少し費用を下げてくれるように手紙を出す。

1月29日 ・新しい数字の手紙を貰う。学生であることを考慮し、人数が10人なら、554,604円にする、と言う内容。

3月4日 ・費用の詳細、滞在日数の増加及び、人員の減少に伴う費用の変化等について、問い合わせの手紙をだす。

3月末 ・上記の返事を催促するため、国際電話をかける。

4月上旬 ・KDD営業所にTELEXの着信代行を開設。

4月14日 ・催促により手紙が届く。日数の増加に応じて費用は増える。という漠然とした返事。交渉のための訪中は5月中旬にしてほしい。また他にも遠征隊があるので計画を7月にせよとのこと。

・通信時間短縮のため以後はTELEXにて交渉を行う。

4月16日 ・計画の時期を7月下旬開始で可能か問い合わせる。

4月21日 ・他の隊が7月中旬に下るので、6月前半に実施せよ、との返事を貰う。

4月23日 ・他の隊について問い合わせる。

・東京農業大学探検部がその隊であると確認する。

4月25日 ・計画を繰り上げて、6月11日日本発の計画を作成し、中国に送る。

4月27日 ・隊員1人当たり1,000,000円で同意するなら、中国銀行に入金するようにと返事を貰う。

5月7日 ・事前の偵察、及び計画・費用の交渉のための訪中を知らせる。

5月19日 ・岩根訪中。内容 ・計画の細部について打ち合わせる。

・軍の関係とかで航行区間が灌県までとされ、費用は初めの半分以下の5人分で2,350,000円となる。

・偵察は飛行機の関係で行けなくなる。

5月25日 ・岩根帰国

5月29日 ・費用の全額を住友銀行から送金

6月11日 ・本隊出発